

令和6年度 ひきこもり支援ステーション事業の実績について

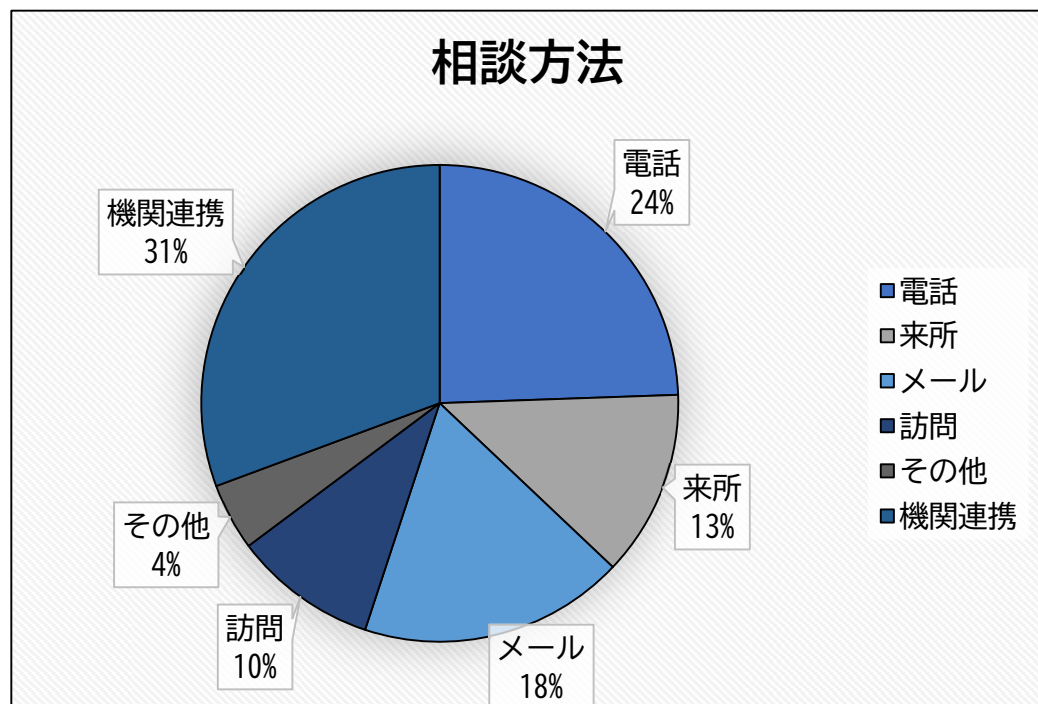
事業開始年月日：令和6年5月から

委託事業所：社会福祉法人さわらび福祉会 支援センターこのゆびとまれ

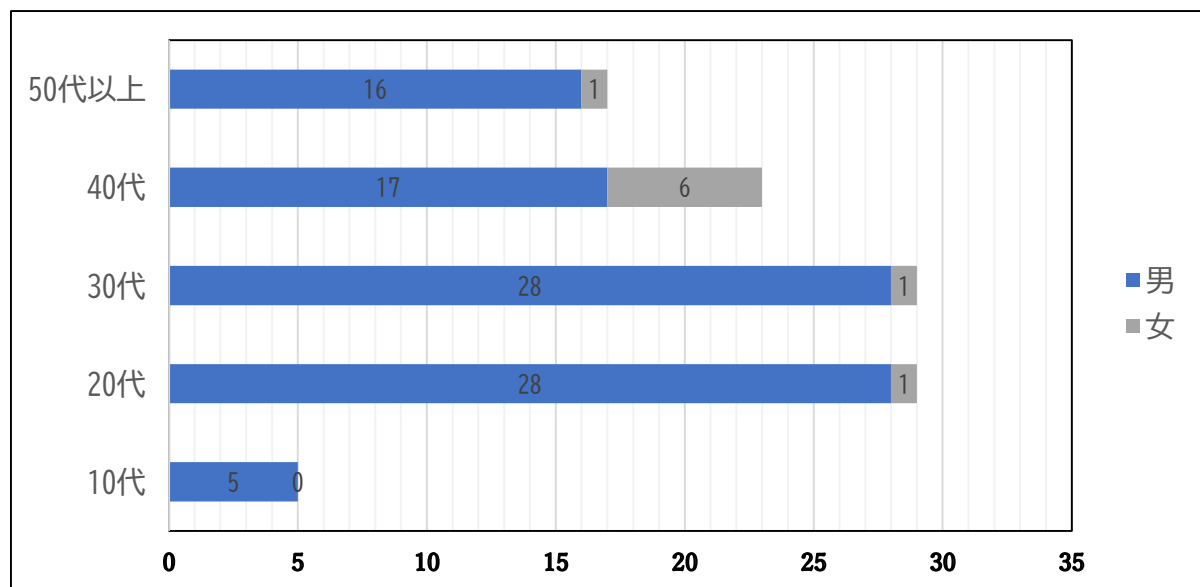
対象者：義務教育終了後ひきこもり状態にある者及びその家族並びにその支援者

◆活動実績

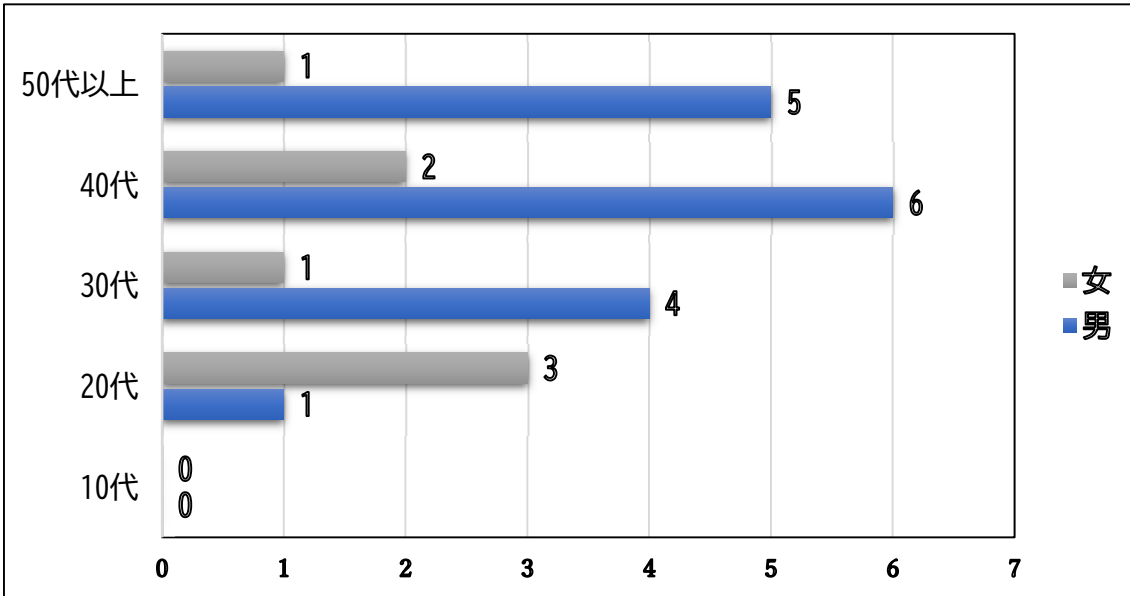
1. 相談方法 電話 118 件・来所 61 件・メール 84 件・訪問 47 件・機関連携 148 件
 その他（同行・個別支援会議・サロン利用等）22 件 （延べ件数）



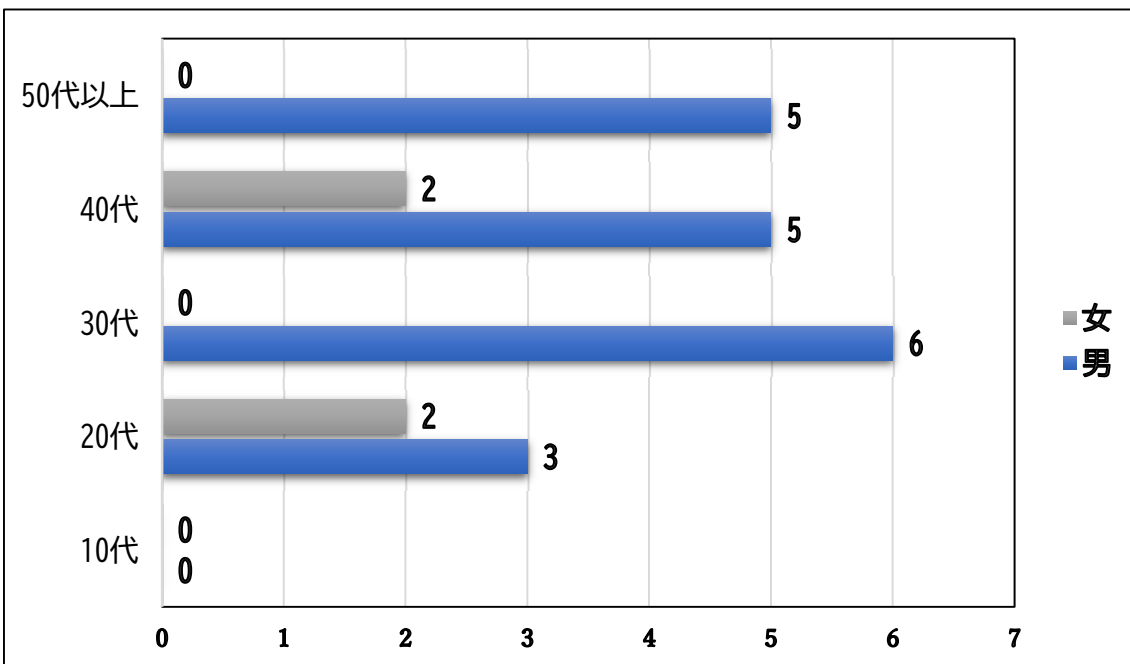
2. 年代別、性別相談実人数 男 75 人女 17 人 うち地域の方と相談した人数 20 人



3. 2のうち当事者と相談したことがある実相談人数 92人中23人（25%）



4. 2のうち家族と相談したことがある実相談人数 92人中23人（25%）



5. 新たに相談を受けた実人数 2人

関わりのきっかけは、親、関係者からの電話相談

6. 関係機関へつないだ実人数 3人

連携先（市の相談窓口2人、居住支援法人1人）

7. その他の取り組み

●居場所支援事業 月1回実施。

内容 ネイルケア、喫茶、ハーバリウム、学習会、軽体操、音楽鑑賞など

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回
日時	10/15	11/13	12/11	1/15	1/29	2/12	2/26	3/19
場所	別棟	別棟	別棟	いろは	別棟	サロン	別棟	サロン
人数	3	3	2	2	2	3	3	3

*別棟・・・事業所内に隣接している活動場所

●関係機関連携およびネットワークづくり

・事業の運営と体制づくり等の協議を行いました。事務局と委託事業者によるコア会議を10回開催しました。

・関係機関連携会議を年2回開催しました。

*支援事例を通じて意見交換や、具体的な課題の協議を行いました。

◆課題等

(相談事業)

・「甲賀・湖南ひきこもり支援～奏～」からの事業と比較して相談件数に大きな伸びはありません。

・相談の対象とする方に、目に留まりやすい啓発方法、手段の検討が必要です。

・特に新規の相談者に対する適切なアセスメントのための情報収集や、幼少期や学齢期も含めた情報の必要性が課題として出てきました。

(居場所事業)

・居場所づくりの試行的な取り組みを実践しました。今後の事業展開について検討していきます。

・ピア活動的なサロンの検討や、地域の活動と連携した取り組みを検討していきます。

(ネットワークづくり)

・市(5課1室)と保健所、社会福祉協議会との関係機関会議にて課題整理を行いました。

・ひきこもりの長期化を防ぐ目的から相談を継続することの重要性について共有しました。

(全体)

・ひきこもり支援にかかるビジョンの共有を図りました。

・個別支援については、チーム支援を継続実施することができました。

◆令和7年度の活動について

○相談事業・・・継続

義務教育終了後の切れ目ない相談場所のひとつとして、教育委員会およびこども未来応援部局への周知を図りました。校長会および要保護児童対策地域協議会にて事業説明を行いました。不登校や課題を抱えるこどもたちが、将来ひきこもりに陥りやすい傾向を踏まえて、相談機関をのひとつとして支援者に知ってもらうための取り組みです。

○居場所づくり事業

➡拡大。市内のまちづくりセンターや地域へと活動拠点を広げていきます。住んでいるところに近い場所で事業を行うことで、参加しやすくなる工夫を検討します。

○ネットワークづくり

➡拡充。コア会議に発達支援室も参画することで、切れ目ない支援に向けた事業運営を展開することを目指します。